

別紙

福祉サービス第三者評価の結果

1 評価機関

名称：一般社団法人しなの福祉教育総研	所在地：上田市上田186-6
評価実施期間： 令和4年6月1日から令和4年12月16日 *契約日から評価結果の確定日（通常、評価結果報告会日）まで	
評価調査者（評価調査者養成研修修了者番号を記載） 50431 B16022	

2 福祉サービス事業者情報（令和4年10月現在）

事業所名：社会福祉法人しらかばの会 （施設名）：しらかばハイツ	種別：共同生活援助 （介護サービス包括型）
代表者氏名：理事長 山浦 俊一 （管理者氏名）：依田 五子	定員（利用人数）： 利用人数）： 33 名（26名）（7グループホーム）
設置主体：設置主体：社会福祉法人しらかばの会 経営主体：社会福祉法人しらかばの会	開設（指定）年月日： 平成13年10月1日
所在地：〒384-2303 長野県北佐久郡立科町塩沢333-1	
電話番号：0267-56-1802	FAX番号：0267-56-1920
電子メールアドレス：bdh20aab@janis.or.jp	
ホームページアドレス：http://janis.or.jp/users/bdh20aab/	
職員数	常勤職員： 6名 非常勤職員 26名
専門職員	（専門職の名称） 名 社会福祉士 2名 准看護師 1名 介護福祉士 7名 精神保健福祉士 1名
施設・設備 の概要	（居室数） 33居室 （設備等） 基準設備

3 理念・基本方針

【法人運営理念】

障がいを持った人たちに、人間としての尊厳に基づく自由で個性的な「本人主体」の生活が送れ、生涯にわたって、自己実現のできる安定した生活の場を保障するとともに、多様な福祉サービスを提供し社会福祉事業を推進する。

【法人基本方針】

1. 障がい者の『人』としての権利を保障し、障がいを持ったまま地域社会の中で、地域の人達と同等で個性的な生活が送れる。
2. 利用者と職員との間に対等の関係を確立する。
3. 地域に開かれた施設として施設機能を地域福祉に役立てる。
4. 利用者の安全を確保するため新型コロナウイルス感染症等の感染防止対策を徹底する。

【事業所目的】

グループホームで暮らすことによって自分にあつたご本人らしい暮らしを実現し、人生を豊かにできるように支援をするとともに、障がいがあっても地域の中で普通に暮らし続けたいという思いを実現できるように支援をする。

4 福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

- グループホームしらかばハイツは、利用者の笑顔を大切に ～共同生活を通して・地域に根差した・豊かな暮らしをはぐくむ～ しらかばの会の共同生活援助事業として経営の一端として、平成13年10月よりグループホームとして開設されました。
- 障害者支援施設たてしなホーム周辺に5カ所、地域の中に2カ所設置されています。2名から7名までのグループホームと2名の短期入所と体験利用など地域向けサービスも提供しています。
- 7つあるグループホームのうち6つが法人所有、1つは借家を利用しています。
- 30名を超える利用者数を抱え、1事業所として比較的障がいの重い利用者が多く利用しています。

5 第三者評価の受審状況

受審回数（前回の受審時期）	1回（令和元年度）
---------------	-----------

6 評価結果総評（利用者調査結果を含む。）

◇特に良いと思う点

① 安定したグループホームの職員体制がとられ、充実した支援が行われていました。

4:1の職員配置基準を確保し、障がいの重い利用者を中心に、7カ所あるグループホームのうち、6カ所に同居する職員や世話人を配置して夜間の支援も提供でき、災害等にも対応できる体制が確保できていました。中高年齢職員の割合が7割と高いが、社会経験豊富な職員が多いため、利用者にとっては安心して相談でき頼れる存在となっていました。

② 強度行動障害に特化した支援が行われる体制が確立していました。

法人事業の中に、強度行動障害担当という職務があり、強度行動障害を有する利用者に対して、支援の質の向上と、統一した支援の確立を目指した取り組みが行われていました。支援のための有資格職員が12名おり、より専門的な支援が組織的に行われていました。また、グループホームの短期入所事業の中で地域拠点整備事業の受け皿となっていました。

③ 本体施設を中心としてグループホーム間の連携が取れ、支援しやすい体制がとられていました。

しらかばハイツグループホームの多くが、たてしなホーム（法人本部及び入所支援施設）の近隣に配置されているため、各ホームの特徴を大切にしながら、連携・協力及び標準的な支援方法の共有が図りやすくなっていました。また、入所支援施設が同一敷地内にあるため、医療体制を含めた人的・物的支援が受けやすく、安定したグループホームの運営が図られていました。

④ 法人の基本的な理念にもとづく安心できるグループホームの運営を目指していました。

「地域と共に」「利用者の笑顔」という法人の理念を目指したグループホーム運営がされていました。利用者の方が地域と繋がっていくための支援や地域にある事業所との連携がとられ、利用者に適したサービスの提供がされていました。食事支援は、休日の昼も含めて提供され、新型コロナウイルスの地域感染の状況下でも安心して過ごすことができる生活の場となっていました。

⑤ 事業所の透明性の確保と利用者の人権擁護への対応が行われていました。

東京都及び長野県の評価機関による福祉サービス第三者評価受審がたてしなホーム、しらかば
ハイツ共に3年に1度行われていて、評価結果についても法人のホームページ及びWAMNETにも
公表されていました。また、佐久ふくしネット、たてしなホームオンブズマン委員会による苦
情等の受付がされ、利用者の人権擁護への取組が積極的に行われていました。

◇特に改善する必要があると思う点

① グループホーム利用者の重度化・高齢化に対する具体的な対応について

現在のグループホームの利用者についても、障がいの重い利用者、高齢の利用者が増加してきて
いる。さらに重度・高齢化した利用者が増えた場合、訪問看護などのサービスの利用者や他施設
移行を含めた支援も課題となっています。今後、法人としての重度・高齢化への対応について、
具体的な検討をお願い致します。

② 今後安定した支援職員、世話人さんの確保について継続して取り組んでいただきたい。

人材確保が今後増々難しくなってきますが、支援職員と世話人の確保が課題となってくること
が予想されます。現状4:1の人員配置の維持ができていますが、中高齢の職員の方も多いため、
将来にわたった人材確保について、法人として組織的に検討され、安定したグループホームの
運営が行なわれていくことを期待致します。

7 事業評価の結果（詳細）と講評

別添付

- ・ 共通項目
- ・ 内容評価項目

8 利用者調査の結果

聞き取り方式の場合（別添3－2）

9 第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント（別添4）